

## 85 「山口ゆめ花博」いよいよ開催 平成30年9月20日掲載

明治150年プロジェクト「やまぐち未来維新」の中核イベントとして、14日に山口ゆめ花博（第35回全国都市緑化やまぐちフェア）が開幕しました。「山口から開花する、未来への種まき。～150年を振り返り、次の150年につなぐ～」をテーマとした、県内外の多くの方が楽しめる「体験・体感する」都市緑化フェアです。

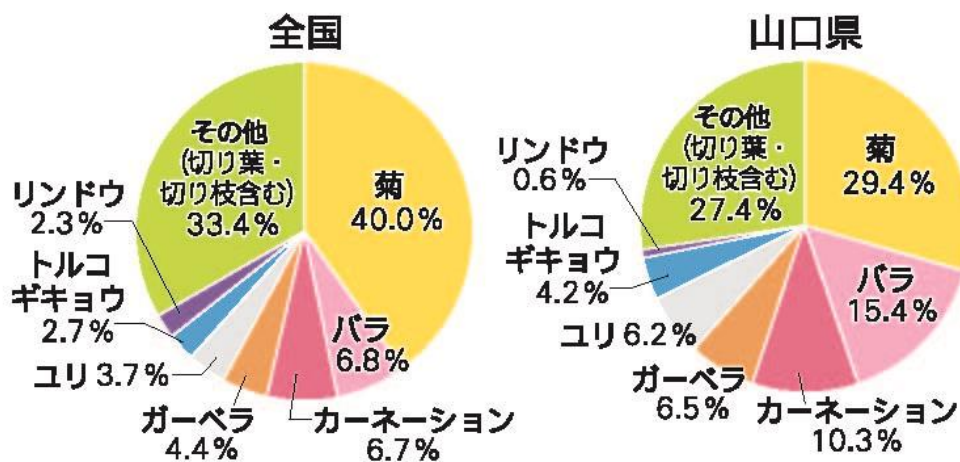
この山口ゆめ花博で私が特に注目しているのは、山口県オリジナルの花です。近年開発された「西京シリーズ」（リンドウ）や、国際園芸博覧会2016で金賞・銀賞を受賞した「プチシリーズ」（小型のユリ）をはじめ、さまざまな品種の花の庭園が設けられ、「1000万もの花」が迎えてくれる非日常の花景観が体感できそうです。このように大規模な緑化フェアを体験できる機会はなかなかありません。

ところで、そもそも山口県ではどんな花が多く作られているのでしょうか。農林水産省の平成28年産花き生産出荷統計から、山口県と全国の切り花類の品目別の出荷の割合をグラフで見比べてみましょう。山口県は全国に比べ、バラやカーネーション、ガーベラ、ユリの出荷割合が高いようです。リンドウは出荷割合としては低めのようなですね。また、全国的に菊の割合が最も高くなっていますが、菊は仏花などの需要が高いからと推測できます。

山口ゆめ花博を機会に、今後普段の生活の中にもさまざまな花や緑を取り入れてみてはいかがでしょうか。

さらに山口ゆめ花博では、花だけでなく、日本一長い竹のコースター、日本一高い木のブランコなど、めったに味わうことのできないアトラクションやイベントも盛りだくさんですので、皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

切り花類の出荷量の品目別割合



出典：農林水産省「平成28年産花き生産出荷統計」